

# 京都府立大学 学生相談室

## ～臨床心理士からのおたより～

このコラムでは、学生相談室に勤務する臨床心理士が日々の中で感じたことや思ったこと、考えていることを発信していきます。少し立ち止まって、休憩がてらお読みいただくと嬉しいです。

## No.17

## Counselor's Column

### 「セクシュアリティの要素について」

臨床心理士 大林裕典

こんにちは、相談員の大林です。今日はセクシュアリティの要素についてお話したいと思います。

セクシュアリティとは人間の性に関連することを指し、「人間の性のあり方」と言えます。そして、その「人間の性のあり方」には4つの要素があるとされています。

①**身体的性** … 生物学的・身体的な性のことを指し、生まれた時に割り当てられるものです。

②**性自認** … 心の性ともいえる、自らをどのような性と自認しているかというものです。

男女に限らず、まだ分からない・決めたくないという様々な人がいます。

③**性的指向** … どういった性に恋愛感情や性的感情を抱くかというものです。

こちらも男女に限らず、両方や、どちらにも感じないという人もいます。

④**性表現** … 自分がどのような性として見られたいかというものです。周囲の人や環境に期待される役割や行動も含まれます。

これらの要素によって私たちのセクシュアリティ、つまり性のあり方が決まります。そう考えると、セクシュアリティは全ての人にあるもので、そこには多いか少ないか（マジョリティかマイノリティか）の違いしかありません。

マイノリティとされる方は11人に1人とされており、左利きの人と同じ割合です。「出会ったことがない」とは言えない数字です。ではなぜ出会ったことがないのでしょうか。それは私たちが意図せず「そんな人はいない」、「普通は違う」という空気を作っているからに他なりません。

わざわざ「LGBT」、「多様性」などと言わずとも、色んなセクシュアリティがあって当然という価値観になっていくためにも、まずは私たちが普段からセクシュアリティを尊重していきたいですね。

令和2年11月12日